

令和 7年 12月 8日

会 津 若 松 市 長 様

報告者 会津若松市男女共同参画推進実行委員会

実行委員長 皆 川 誠 治



男女共同参画社会づくり推進活動にかかる成果報告書

男女共同参画社会づくり推進活動支援補助金により実施いたしました講演会「男女共同参画の視点で防災・地域づくりを考える」の成果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 事 業 名

講演会「男女共同参画の視点で防災・地域づくりを考える」の開催

2 事 業 の 目 的

災害発生時、特に、避難所運営では、性別や年齢、健康状態等によるニーズの違いに配慮することが求められており、女性をはじめとした多様な方の参画が重要であることから、男女共同参画の視点から災害時に起こりやすい課題や留意点を学び、誰もが安心できる防災・支援が行える力を養う研修会を開催し、地域の防災力向上につなげる。

3 主 催 会津若松市男女共同参画推進実行委員会

4 開 催 日 時 令和7年12月6日（土）14：00～16：00

5 会 場 会津稽古堂 研修室2・3

6 出 席 者 数 31名

7 成 果 と 課 題

講師の北村育美氏より、男女共同参画の視点で、災害時に起こりやすい課題や留意点などについての話があった。東日本大震災時、ビッグパレットで避難所運営に関わってこられた経験から、具体的な講演内容で大変参考になった。

特に、避難所に避難している人も、避難所外の自宅などで非難を余儀なくされている人も、どちらも被災者であるという視点が大切であること、高齢者や障がい者、子ども、妊婦などいろいろな人がいる中での避難所運営には多様な視点が必要だということなどを学ぶことができた。講演後のワークショップでは、事例をあげながら「さ・す・け・な・ぶる」の5つの視点で対応しなければならないことを痛感した。

これまでの防災会議や自治会では男性が中心になりがちだったが、災害時の生活には女性の視点も深く関わっており、防災は「非常時の対応」だけでなく、日常の地域づくりが重要であることを学び、有意義な講演会となった。

講演会「男女共同参画の視点で防災・地域づくりを考える」収支決算書

収入総額 25,300円
支出総額 25,300円
残 額 0円

収入内訳

科 目	金 額	付 記
本 会 負 担 金	12,700	
補 助 金	12,600	会津若松市より
計	25,300	

支出内訳

科 目	金 額	付 記
郵 券	25,300	切手110円×230枚
計	25,300	

上記のとおり、ご報告いたします。

令和 7年 12月 8日

会津若松市男女共同参画推進実行委員会
実行委員長 皆 川 誠 治

